

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和5年度 第5回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和6年1月15日(月) 19:00~20:00
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 各部会からの報告 2 高松市在宅医療支援センターの報告について 3 その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	18人 吉澤委員長、大原職務代理、石野委員、大橋委員、片山委員、北代委員、田中委員、玉井委員、辻委員、永岡委員、中村委員、橋本委員、花房委員、林委員、古川委員、松本委員、三橋委員、和田委員
関係者	市医師会事務局(6人) その他: 医師会(伊藤会長、井垣理事、香川理事、塩見理事)、県長寿社会対策課(1人)
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 び 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係 839-2346 在宅医療支援センター 839-2344 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 保健医療政策課 839-2860

協議経過及び協議結果

1 各部会からの報告

(1) 退院支援・医療介護連携部会より

○ 第2回 医療介護連携ミーティングについて

【日時】 令和5年11月18日(土) 14:00~16:40

【場所】 高松市医師会 5階ホール (会場参集のみ)

【講演】 「地域で在宅療養者を支えるために必要なこと〜ケアマネジャーの役割として〜」

【講師】 (株) ウェルネス香川 代表取締役・主任介護支援専門員 壺内 令子氏

【パネルディスカッション】 「在宅療養中の高齢者を支えるしくみを考えよう！」

【パネリスト】 (株) ウェルネス香川 代表取締役 壺内令子氏 (主任介護支援専門員)

高松市社会福祉協議会 まるごと福祉相談員 石尾真一氏 (社会福祉士)

老人介護支援センターさぬき 池浦友美氏 (主任介護支援専門員)

老人介護支援センター玉藻荘 織田裕子氏 (主任介護支援専門員)

【参加者】 76名

【アンケート回収率】 71.0%

・介護支援専門員の現状について、人員不足等の課題や適切なケアマネジメント手法の普及推進に取り組んでいることが理解できた。

- ・パネルディスカッションでは、実際に支援した事例を通して、インフォーマルサービスを含む様々なサービスへのつなぎ方を示すことができた。
- ・講演、パネルディスカッションともに「理解できた」と回答した割合が90%を超えている。
- 第5回 退院支援・医療介護連携推進部会報告
 - ・在宅医療介護情報サイトについて、情報更新を行うことと研修会等で出ている知見を周知するために、Q&A（仮）を改修することを検討している。
 - ・今後、Q&A コンテンツの名称決め、職能団体ごとに5問程度のQ&A案を考えてもらう予定。
 - ・R6年度4月には、運用開始したいと考えている。
 - ・在宅ケア便利なびについて、情報の更新を行い、より発展させていきたいと考えている。
 - ・12/10（日）香川県地域包括ケアシステム学会にて、みんなの病院患者支援センターが、「地域包括ケア病棟での入退院支援情報共有シート導入後の課題抽出」について、報告した。

A 委員

- ・在宅医療介護連携ミーティングは、介護支援専門員の課題を多職種が知ることができ、とても実りのあるミーティングとなった。

(2) 在宅医療コーディネーター部会より

○ スキルアップ研修について

〈1回目〉

【日時】令和5年11月17日（金）19:00～21:00

【場所】高松市医師会 2階大会議室

【講演】「長生きリスクに備える～成年後見制度と老後のお金の話～」

【講師】福祉とお金のアドバイザー 大川 裕子氏

- ・香川県内の独居・高齢者のみ世帯は、61%である。近くに親族がいない、人間関係が希薄等、老後に高リスクを抱える高齢者が増加することを意味する。
- ・死後事務委任契約や家族信託等の活用等、元気なうちに自分で決めておく必要性を説明してもらった。

〈2回目〉

【日時】令和5年12月17日（日）14:00～17:10

【場所】高松市医師会 2階大会議室

【講演】「地域における病診連携の課題～ACPをどう繋ぐか～」

【講師】清水メディカルクリニック 清水 政克医師

- ・在宅医療大切にすることは、意思決定・ACP、療養環境調整、病状緩和、入院回避であり、意思決定支援のない退院調整は、追い出しである。
- ・本人と家族の意見が違う場合は、それぞれの意見が違う理由を探求することが必要。

○ 意見交換・アンケートについて

〈意見交換〉

- ・現場で働く、在宅医療コーディネーターの現状を把握し、今後の取り組みの参考にするため、第1回スキルアップ研修参加者を対象に、意見交換を実施。
- ・コーディネーター（自身のスキルや知識を活用して対応すること）とコーディネーター

活動（所属を飛び出して、自分の担当業務外での活動）の区別が曖昧になっていることが判明。

- ・コーディネートを行うためには、多職種連携、顔の見える関係づくり、知識習得が必要であると考えている在宅医療コーディネーターが多いことが分かった。

〈アンケート〉

- ・意見交換の結果を踏まえ、第2回スキルアップ研修会参加者を対象に、研修会の感想と併せて、在宅医療コーディネーターの関係づくりに関するアンケートを実施。
- ・スキルアップ研修の内容に対する満足度は8割を超えていた。
- ・在宅医療コーディネーターが、自所属等でコーディネートを円滑に行うためには、実際のコーディネート事例の共有や高齢者を取り巻く問題の解決に役立つような知識の習得が必要であると考えているコーディネーターが多かった。
- ・スキルアップ研修のような知識習得の場を提供し、その中で関係づくりができるような取り組みが必要なのではないかと考える。

C 委員

- ・在宅医療コーディネーターの活動について、何をしたらよいかかわからないという意見があったことに衝撃を受けた。スキルアップ研修等で症例を通して、より具体的な活動内容や患者との関わり方を示していく必要があると感じた。

A 委員

- ・スキルアップ研修への参加は、コーディネーターの役割等を振り返ってもらえる機会になると思う。相談を受けた際には、支援をするという意識を持ち続けてもらうことが大切だと思う。

(3) 多職種連携部会より

○ 第2回 多職種連携部会報告

- ・パネリストとして、高松市危機管理課・健康福祉総務課、日本赤十字社香川支部、香川県社会福祉協議会、訪問看護ステーションが決定した。
- ・事業所間での顔の見える関係づくりのため、研修会の最後には、名刺・情報交換会を予定している。
- ・参加申し込み者は、74名（1/15現在）。
- ・内容について、第3回 多職種連携部会で検討予定。

A 委員

- ・能登半島地震発生により、災害対応、BCPについて考える必要性が増したと思う。明日は我が身と思い、取り組んでほしい。

(4) ICT 部会より

○ 第2回 ICT 部会報告

- ・Kintone&トヨクモを活用した患者情報のクラウド化について、部会委員の意見をもとに改良した箇所を共有した。閲覧場所を選ばないことやペーパーレスというメリットとセキュリティについて、検討が必要なことを話し合った。
- ・患者情報のクラウド化について、1月から月1回の頻度で部会を開催予定。
- ・K-MIXRを活用した要介護認定情報システム（仮称）について、香川県医務国保課より、説明を受けた。坂出・宇多津エリア、東かがわエリアにて実証検討中である。

A 委員

- ・実証検討地域と高松市は、認定申請の流れが違うので、検討が必要である。

- 便利なびの掲載について
 - ・住所や郵便番号等、変更のあった医療機関について報告する。

2 高松市在宅医療支援センターの報告について

- 令和5年11月・12月の活動報告
 - 【相談件数】11月：9件 12月：5件
 - 【その他】医療機関や事業所に情報収集を実施。

A 委員

- ・在宅医療支援センターでは、在宅医療に関係すること全般を受け付けることになっているが、開業医で在宅診療を始めたい等の問い合わせがあった際は、医師会事務局につないでもらいたい。

3 その他

- 第4回 高松市在宅医療介護連携推進会議報告書

【次回の会議】 令和6年3月11日（月） 19：00～ 高松市医師会